秋田県立博物館研究報告　第8号　91－92ページ　1983年3月

館蔵資料「御城下古絵図(寛文年中)」の紹介

半　田　和　彦

城下町の発達を研究する場合，必要欠くべからざる資料として城下絵図がある。中でも，居住者名の明記されているものは重要である。これらの資料から町割，武士の配置[1]そして商人町の発達など数多くの研究が可能である。城下絵図は製作の意図により

A型　町割のみのもの

B型　内町のみ居住者明記のもの

C型　外町　　〃

D型　内町と外町の両方の居住者明記のもの

などに分類することが出来る。この内，D型の存在は今の所確認されていない。A型のものについては，これまで『秋田県史』をはじめ多くの歴史書において紹介されてきている。

しかし，B型，C型についてはこれまでのところ資料の所在を含めて，あまり調査，研究が行なわれていないのが現状である。幸い，当館所蔵の守屋家資料[2]の中にB型に属するものが二点存在する。その内のひとつを資料紹介の形で示すこととした。

本資料－御城下古絵図（寛文年中）－を紹介するにあたり，B型に属すると思われる資料を現在知り得る限り一覧すると次のようになる。

秋田県立図書館蔵

羽州久保田大絵図（たて156cm×よこ152cm）

明治5年写，古内堯康とあり，居住者名から推定して文政10年（1827）～天保元年（1830）頃の城下の様子を示す。『図説　久保田城下の歴史』無明舎出版　渡部景一著でほぼ印刷化される。

秋田県庁総務部文書広報課蔵

御国替当座御城下絵図（130cm×150cm）

町割りがはっきりせず，給人数も少ないため城下絵図として利用価値は少ない。

御城下絵図（303cm×330cm）

寛保2年（1742）製作。給人名記載数が多く，利用価値が大である。

秋田県立博物館蔵

御城下古絵図（210cm×170cm）

寛文年中（1661～1672）のもの。楷書で書かれており，給人数も多く利用価値は大きい。

城下絵図（148cm×160cm）

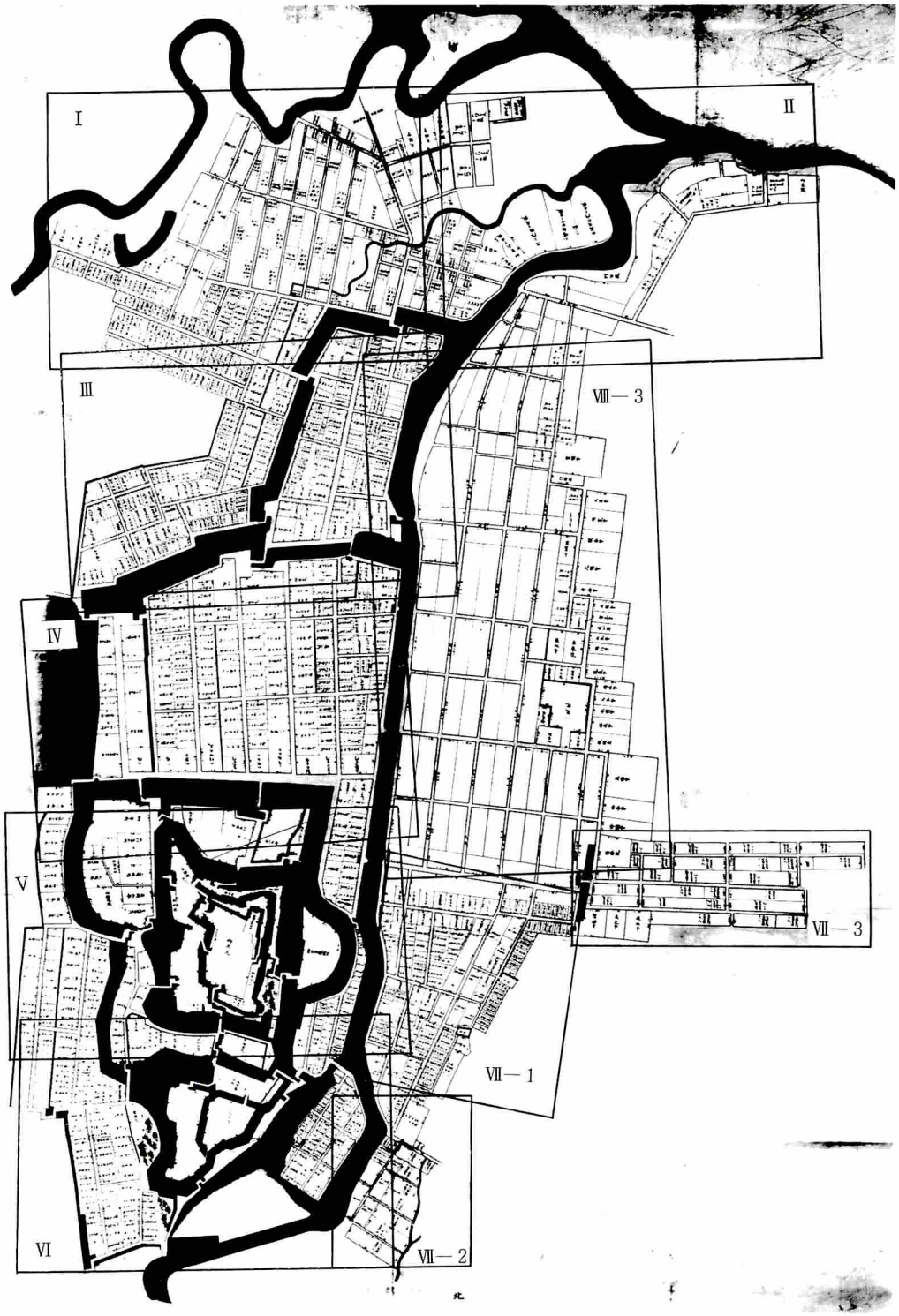
宝暦13年（1763）製作。草書で給人名が書かれている。給人数も寛文期と同じ程度であるが，全体的に給人名の文字が小さく，不鮮明である。

以上から明らかなように本資料は城下絵図としての体裁を持つ最も古い資料である。これまで秋田県では城下絵図の印刷化が行なわれていなかった。それは，絵図が大きく写真撮影にあたり数多くの困難がともなうためと思われる。事実，今回も，数回の試行錯誤の末，一応満足のできる写真を得ることができた。印刷化が行なわれず，これらの資料が一部研究者のみの利用するところとなっていたため秋田における城下町研究が立ち遅れていたものと思われる。

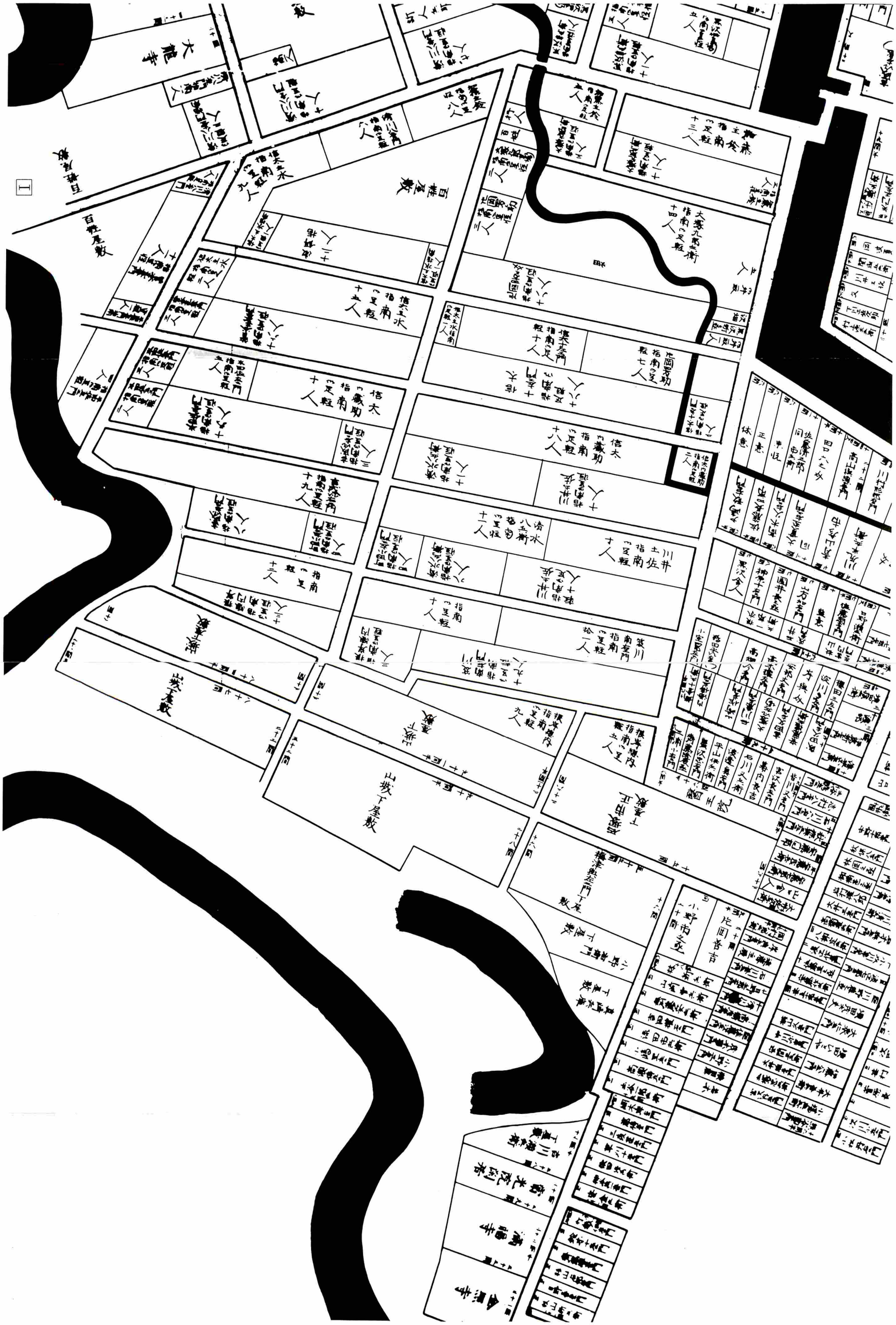
本資料の印刷化にあたっては，給人名や間数が判読できるようにすることを前提とし，撮影は6×9版のリスフィルムによった。

注1　『秋田県立博物館研究報告』　第7号　「小野寺家臣から佐竹家臣へ－黒沢家の場合－半田和彦で秋田市中通三丁目黒沢信夫家をテーマとして取り扱う。

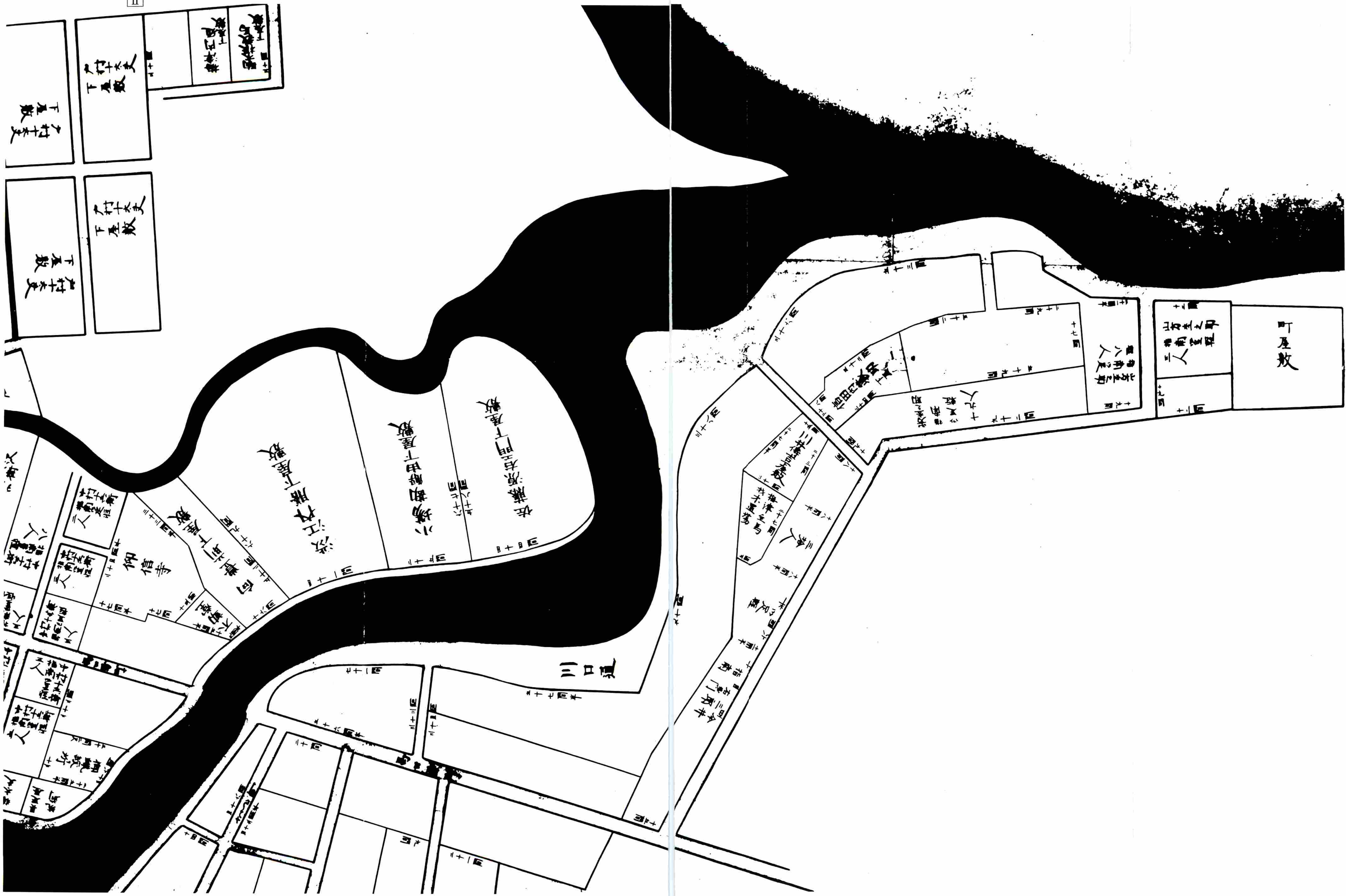
2　『秋田県立博物館収蔵資料図録』　歴史Ⅱ　守屋家資料を参照のこと。

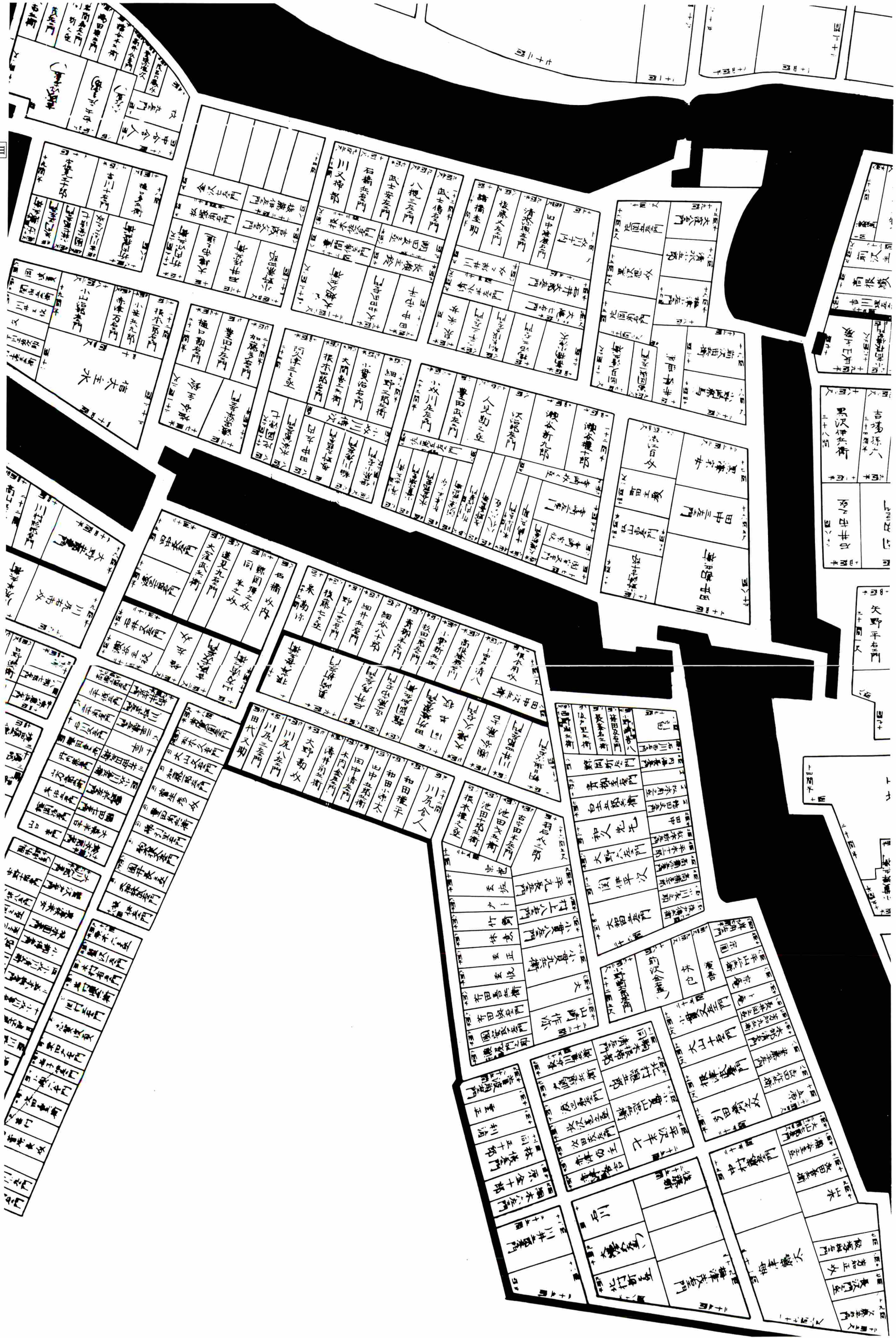


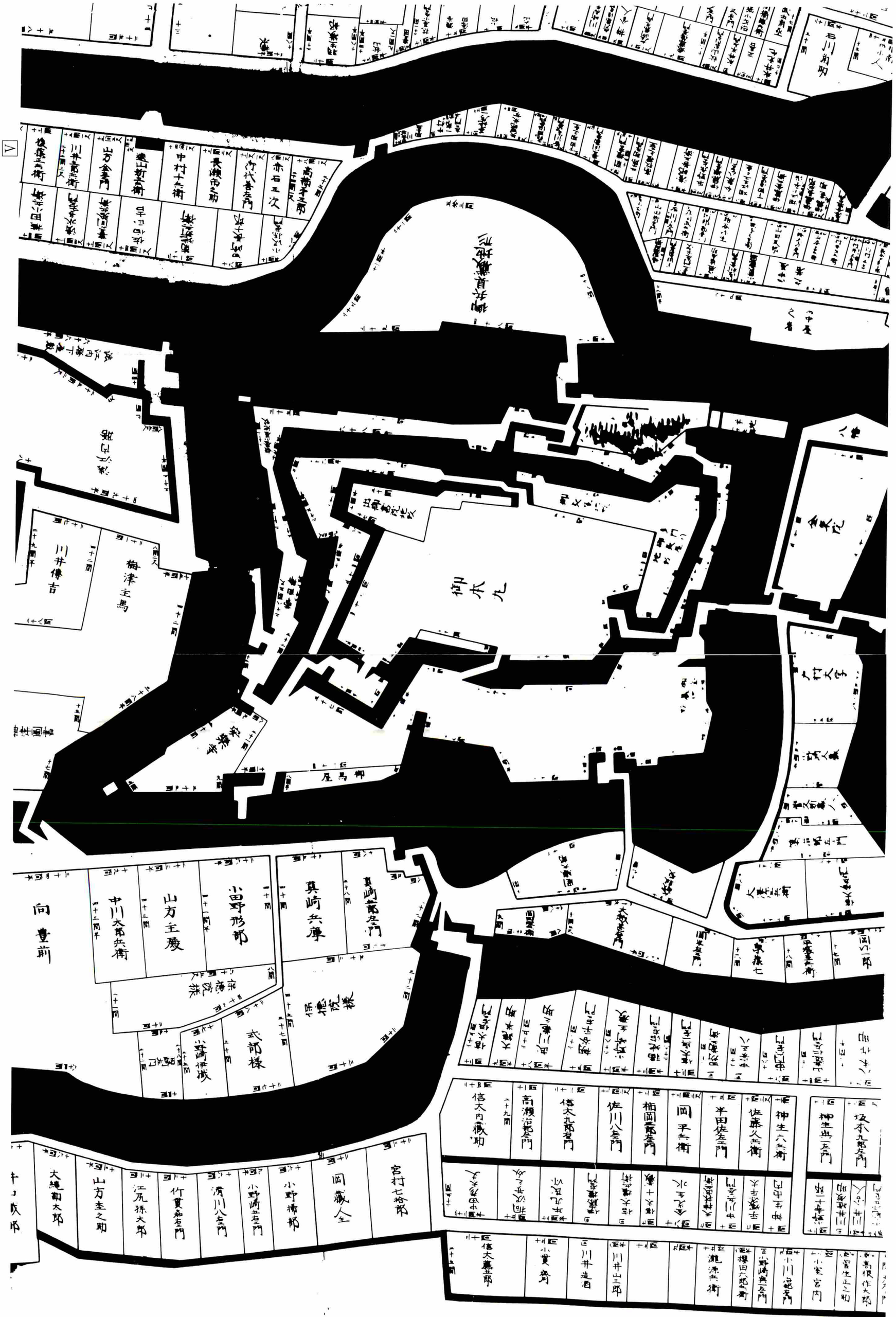
この図に記入した番号は折り込み図版の番号を示す。 なお，Ⅷ－２の部分はこの絵図の裏書である。



Ⅱ



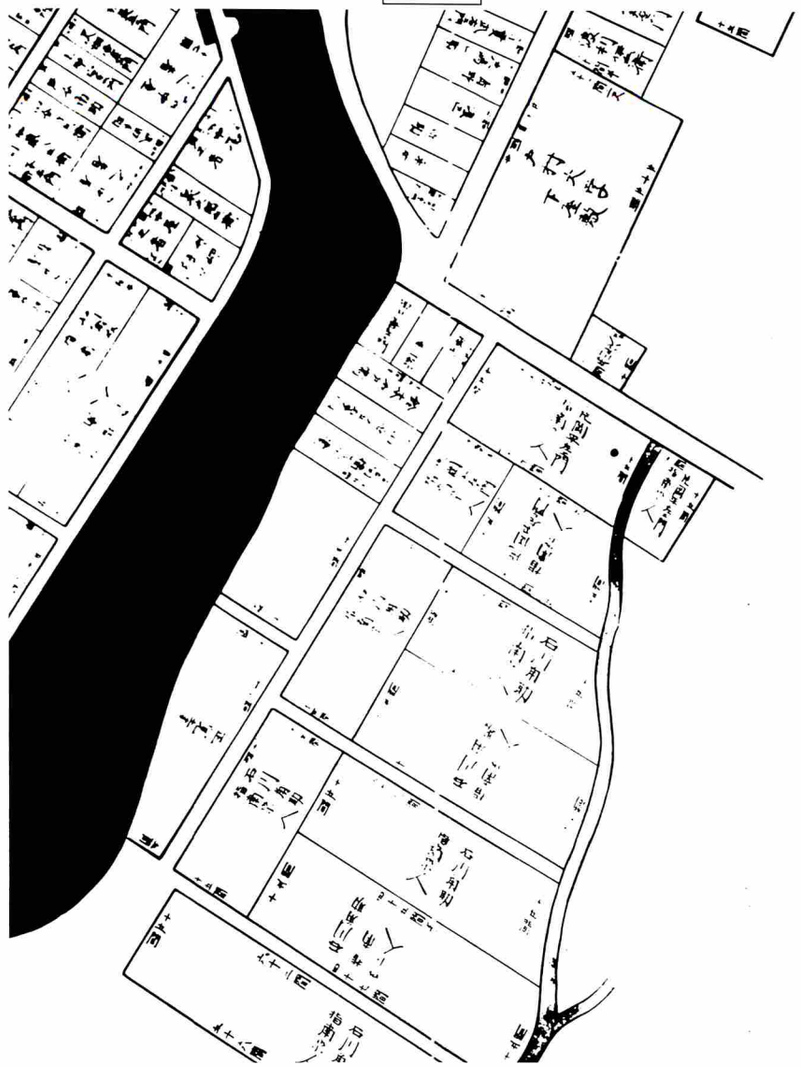



御城
梅津主馬
川井傳吉
向豊前
山方主殿
小田野形部
中川太郎兵衛
真崎兵庫
真崎郎左門
武部様
宮村七拾郎
岡藏人
小野博部
小野崎左門
清川八左門
竹貫弟左門
江尻孫大郎
山方主之助
大縄御大郎
信大内藏助
高瀬治郎左門
信大九郎右門
佐川八左門
栖岡三郎左門
岡平兵衛
半田佐左門
佐藤久兵衛
神生六兵衛
坂本九郎左門
神生與三左門
信大蕃左郎
川井山三郎
川井造酒
小貫齋
瀧澤兵衛
小野崎與左門
小川治郎右門
小室宮内
高根作大郎
石川角助
中屋
久右
長瀬市之助
中村十兵衛
竹代善左門
赤石三次
高橋孝三郎
山方金左門
川井吉左衛
後藤正兵衛
梅津主馬屋
清水寺

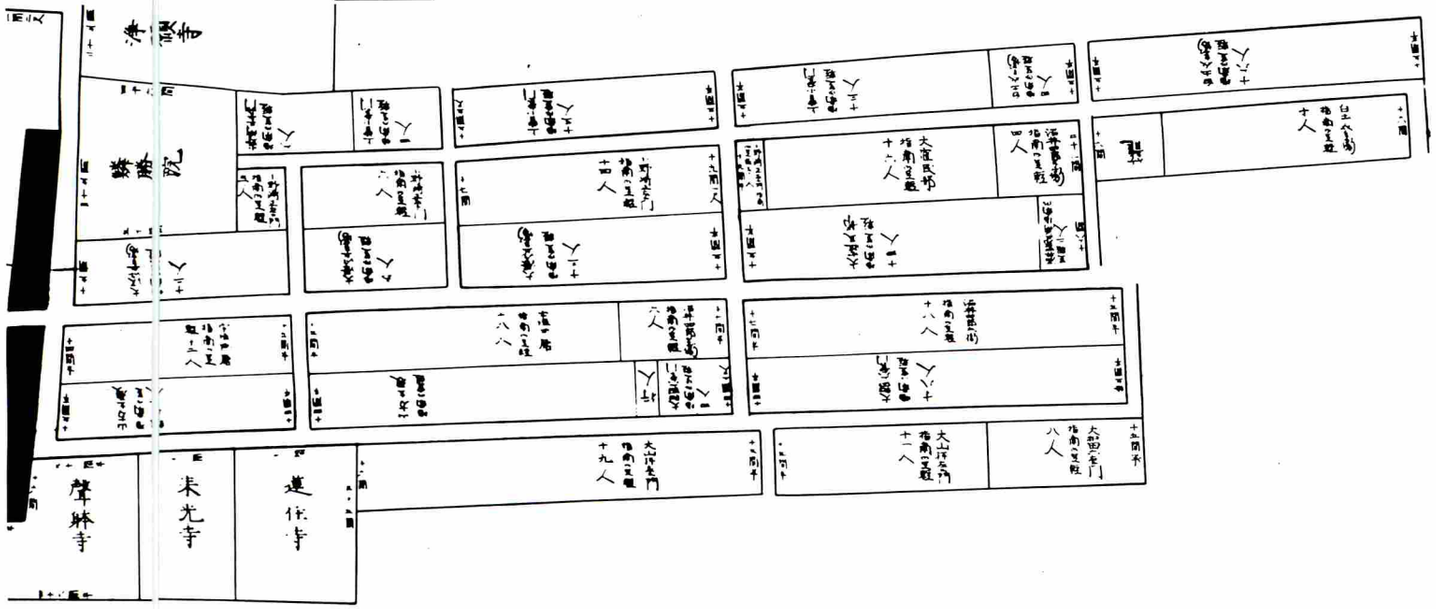
大澤左衛
築治部左門
戸村大学
金峯院
八幡
御社殿
北之丸
賀鏡院

Ⅶ－1

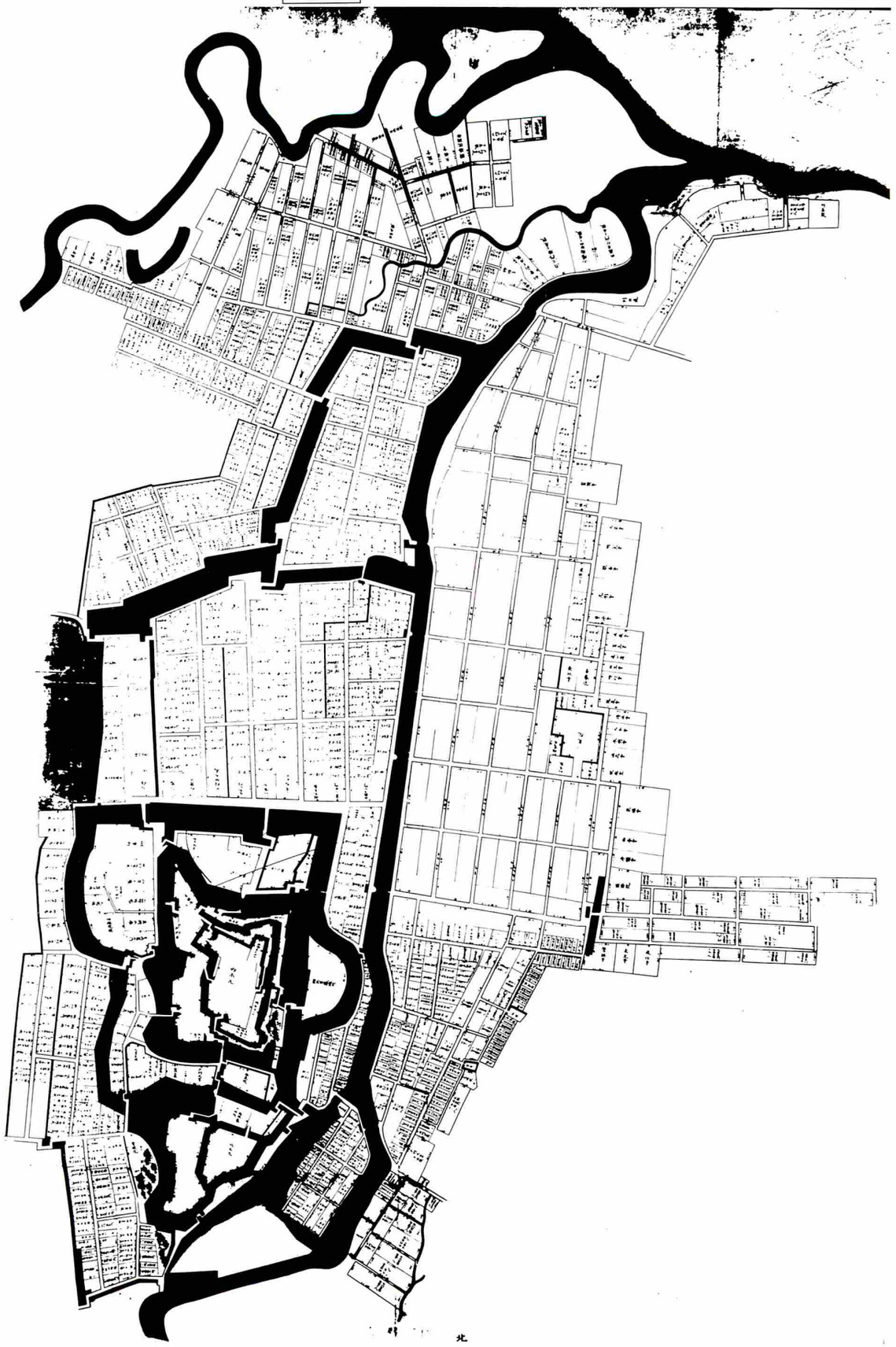
Ⅶ－2



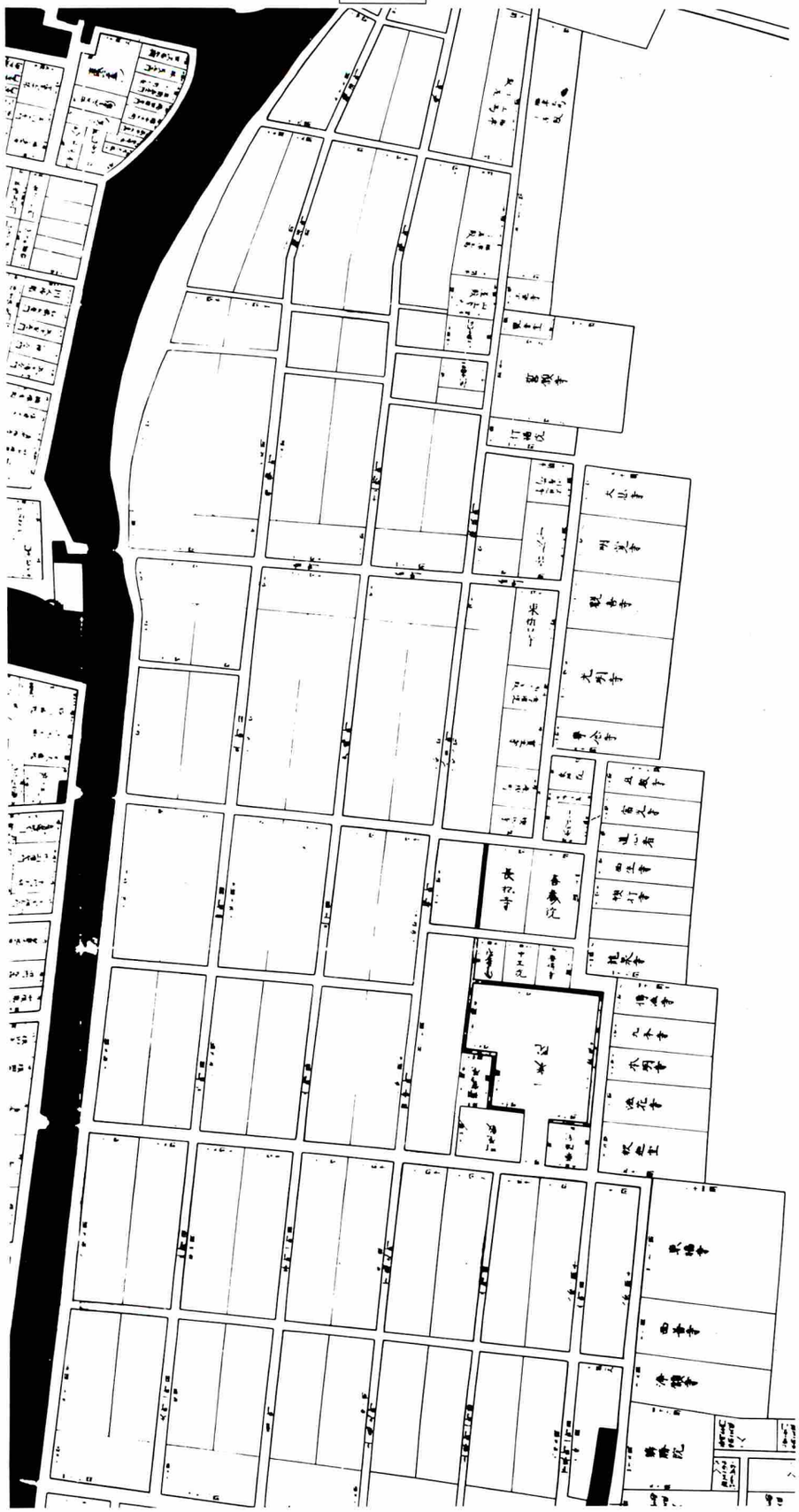
Ⅶ－3



Ⅷ－1



Ⅷ－2

城下古図

Ⅷ－3